

基準7 学生支援等

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成17	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガイダンス合宿、オフィスアワーの設定、クラス担当教員やアドバイザー教員の制度など、学生に対するきめ細かな支援が行われている。(長岡) ○ 学生の多様なニーズを把握するため、従来の学生生活実態調査に加えて、学長ら執行部が学生と積極的に懇談会を開いている。(長岡) ○ 留学生を積極的に受け入れ、留学生センターで充実した日本語教育支援を実施している。また、留学生課、留学生カウンセラー、チューターらが積極的に相談にあっているのをはじめ、きめ細かい情報の提供など生活支援を実現している。日本の文化や社会を学ぶ機会や地元の人々との交流の機会も豊富に用意されている。(長岡) ○ 何でも相談窓口、学長と学生会の懇談会の開催など、学生支援の取組が充実している。(豊橋) ○ クラス代表者懇談会において出された意見・要望とそれに対する学生生活委員会の回答をまとめたものを、講義棟の掲示板上に定期的に掲示している。(豊橋) ○ 新入生ガイダンスなど、きめ細かくガイダンスを実施している。また、クラス担任制、T.A、オフィスアワーの設定、留学生、障害のある学生に対するチューター制度、留学生に対する日本語の補講など多面的な学習支援が行われている。(豊橋) ○ 大学独自の「豊橋奨学金制度」を制定し、学生支援のために適切に活用している。(豊橋) ○ 学生生活実態調査を2年ごとに実施し、学生のニーズが詳細に把握されている。また、実態調査報告書の中で、学生からの要望に対する大学側の回答も記載されている。(はこだて未来) ◎ 特徴的なオープンスペース構造が学生の自主的学習を促進するとともに、その構造とガラス張りを基本とするパーティション構成により、学生の教員室訪問を容易にしており、学生と教員のコミュニケーションが十分に図られている。(はこだて未来) ◎ すべての学部学生に対する取組として、学生相互の交流及び情報交換、教員からの学習・生活相談、助言などを目的として、コンタクトグループを設けている。(大分県立看護) ○ 学生の生活実態調査を毎年定期的を実施することにより、学生のニーズを把握し、学習・生活支援の改善に活かしている。(大分看護科学) 		
平成18	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学長が学生等から直接意見を聴く取組として、学長オフィスアワーの設定、学長直言箱の設置、学生との懇談会や新入生保護者との懇談会が実施されていること。(弘前) ○ 遠隔地の学生のため、青森サテライト教室での授業の開講(人文社会科学研究科、教育学研究科)、テレビ会議システムによる遠隔授業(医学系研究科)が行われている。(弘前) ○ 学生組織共同体として、「学生議会」の発足を支援し、そこから学生の要望を聴取し、理事・副学長が要望についての所見を伝えている。(岩手) ○ 「Let'sびぎんプロジェクト」等により学生の自主的活動を奨励し、支援を行っている。(岩手) ○ 「ジョブカフェいわて」との連携協力事業として「ジョブカフェ岩手大学スポッ」を開設し、学生の就職支援を充実させている。(岩手) ◎ 学習をサポートする体制として、学生による学習支援及び相談活動「学習ピアサポート・システム」を平成18年度から導入している。(秋田) ◎ GPA制度、アドバイザー教員制度及び学習サポート教員制度を柱として導入された「YUサポーターシステム」によって、学生の学習・生活支援に対して、日常的な取り組みが行われている。(山形) ○ 分散しているキャンパスに対応する学生支援等が、さまざまな工夫の下で適切に整備され、運用されている(山形) ◎ 学生の自主創造の実践の場となることを目的に設置された創成学習開発センター、学生個人が携帯できる情報端末を持ち、いつでもどこでも情報アクセスを可能にする「uキャンパス構想」により、先進的な自主的学習を支援している。(徳島) ○ 学生定期健康診断受診率(平成17年度)98%という達成はきわめて高い水準であり、学生の健康を守る体制が整備されているとともに健康に対する学生の自覚が非常に高いことを物語っている。(沖縄県立芸術) ◎ 附属図書館と同一の建物に、よく整備され、広いスペースの院生室が確保されている。(沖縄県立看護) 		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 障害のある学生への支援として、障害者用駐車場、校舎玄関のスロープ、エレベーター、身障者用トイレが設置されているが、まだ十分に対応しているとは言えない。(弘前) ○ 附属図書館の開館時間のさらなる延長を希望する自主的学習意欲の高い学生が多いことへの対応が望まれる。(山形) ○ 図書館の開館時間については、延長を希望する学生が多い(東京農工) ○ 学生支援の仕組みが制度的には整備されているが、学生の実際の利用状況が必ずしもそれに十分見合うものとはなっていない。(京都教育) ◎施設全体としてバリアフリー化が十分ではない。(京都教育) ◎ 施設のバリアフリー化が十分とはいえない。(徳島) ◎ 施設全体としてバリアフリー化が不十分である。(奈良県立医科) ◎ 音楽棟ほか4棟については、障害のある学生を考慮したバリアフリー化がされておらず、器具やソフト面がほとんど整備されていない。(沖縄県立芸術)

基準7 学生支援等

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成19	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生担当教員を置くとともに、「何でも相談窓口」や投書箱を設置し、学生のニーズを把握してきめ細かい対応と改善を行っている。全体として支援体制も整っている。(旭川医) ◎ チュートリアル教室が整備され、有効に活用されている。(旭川医) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成19年度には、文部科学省学生支援G Pに「夢を育むe-学生支援」が採択されている。(北見工) ◎ 地域ぐるみの後援会K I Tげんき会による教育支援効果が大きい。(北見工) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学生相談所は、理学研究科と工学研究科の大学院生(T A修学アドバイザー)による学習支援を積極的に行っている。(東北) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学長が学生の意見を直接把握する取組として、「学長と学生との懇談会」や「学長オフィスアワー」が実施されている。(福島) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生支援機構の下に設置されている課外活動サポート企画室、ボランティアサポート企画室、障害学生修学サポート企画室及び学生寮サポート企画室等の各企画室で、学生を構成員として参加させ、学生からの意見を大学運営に反映させている。(千葉) ◎ 学生の環境保全に関する自主活動が機動力となり、学生委員と教職員が活動を展開した結果、各キャンパスで、順次I S O14001の認証を取得している。(千葉) ◎ 大学構内に「やよい保育園」が開園され、現在、学生10人、教職員7人が利用している。(千葉) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 留学生に対して、「全学日本語プログラム」による補充教育を提供することで、個々の留学生の置かれた状況に応じて、適切な学習支援がなされている。(東京外語) ◎ 大学祭(通称「外語祭」)において上演される「語劇」に対して、平成16年度の文部科学省特色G P「生きた言語修得のための26言語・語劇支援」を通して支援がなされている。(東京外語) 		◎ 平日20時以降及び土曜日、日曜日に研究講義棟の院生研究室に立ち入ることができないことに不満を感じる学生が多い。(東京外語)
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 全学生を対象に学勢調査を実施し、学生の要望や問題点指摘を集計・分析し、改善・対応した結果を、随時ウェブサイトに掲載している。(東京工大) ○ 学生同士が気軽に相談できるピアサポート制度、留学生への「VISAコンサルティングサービス」など特色ある相談・助言体制を整備している。(東京工大) ◎ 平成19年度に「3相の(ことづくり)で社会へ架橋する」が文部科学省学生支援G Pに採択されている。(東京工大) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育・学生担当副学長と学部前期・後期及び大学院自治会代表とによる定例懇談会(月1回)、ウェブサイト上での学長による学生からのメールの直接受け付け、学生モニター制度の開設、学生意見箱の設置など、学習支援に関する学生のニーズの把握への努力が極めて日常的・積極的である。(一橋) ◎ 学士課程の大学公認学生サークル加入率が70.97%に達している。(一橋) ◎ 海外留学を目指す学生に対して寄附金による大学独自の奨学金を毎年約30人ずつ支給している。平成17年度からは新たに短期海外研修としてオーストラリアのモナシュ大学に学部学生17人を約1か月間派遣している。(一橋) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「キャリアデザインファイル」によるキャリア・サポートシステムを構築し、実施しており、平成19年度に「横浜・協働方式による実践的キャリア教育ー「キャリアデザインファイル」をつなぎ手としたキャリア・リーダーシップ力育成教育の構築ー」として文部科学省現代G Pに採択されている。(横浜) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生の学習支援については、ほとんどの学部等でアドバイザー教員、クラス担任、学生相談員等を配置するなどの支援を行っている。(新潟) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就職支援室に2人の就職相談員が常駐し、就職に関する相談・質問に応じている。(上越教育) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害のある学生への修学支援体制が整っている。(金沢) ○ 大学院生には各自専用の机が確保されている。(金沢) ◎ 平成18年度から、新入生全員に対して、金沢大学学生健康保険組合の負担で感染症対策のための抗体検査が実施されており、抗体を持たない学生のために予防接種の機会を設けるなど独自の取組が行われている。(金沢) ◎ 文部科学省新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムに、平成19年度に「心と体の育成による成長支援プログラムー社会に幸せをもたらす生活の知恵を持った学生の育成ー」が採択され、保健管理センターが中心となって取り組んでいる。(金沢) ◎ 文部科学省再チャレンジ支援経費に、平成19年度に「社会人の「学び直し」支援プログラム」が採択され、社会人学生に対する授業料減免を行っている。(金沢) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 24時間利用可能なオープン端末室を設置しており、多くの学生が利用している。(山梨) ◎ 特別待遇学生や当該大学の特色である、「クリーンエネルギー特別教育プログラム」及び「ワイン科学特別教育プログラム」の入学生に対して、経済的な援助とともに勉学の奨励と意識の高揚を図っている。(山梨) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティア活動に関わる物品購入経費を援助し、あるいは、学生の自主組織にボランティア活動の場所を提供するなどして、学生のボランティア活動に積極的な支援をしている。(信州) ◎ 「個性の自立を《補い》《高める》学生支援」が、平成19年度文部科学省学生支援G Pに採択されている。(信州) 		

基準7 学生支援等

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 留学生の民間住宅入居のために、大学が機関として保証している。(岐阜) ○ 平成19年度に文部科学省学生支援G Pに採択された「生涯健康を目指した学生健康支援プログラム－生涯健康教育の推進と健康支援の充実－」では、学生の健康教育推進に取り組んでいる。(岐阜) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 30室のチュートリアル教室を授業での使用時間を除き学生の自主学習、グループ学習に開放している。(浜松医) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 大学院博士後期課程学生を対象とした学術奨励賞奨学金制度により、大学院博士後期課程への進学を促している。(名古屋) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 愛知教育大学教育研究基金を設け、留学支援事業として留学生への奨学金の給付を行っているほか、学生支援事業として課外活動支援及び学生表彰者等への報奨金の給付を行っている。(愛知教育) 		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 課外活動用の利用施設が老朽化しており、貸出物品も不足している。(愛知教育)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成18年度後期から、当該大学独自の学業成績等優秀学生に対する「博士課程奨励制度」が実施され、学習奨励と生活支援が強化されている。(三重) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 留学生に対する支援として、チューター制の導入、留学生担当教員の配置、奨学金等申請に係る指導と助言等、きめの細かい支援が行われている。(京都) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生寮の老朽化対策及び管理運営体制の改善が望まれる。(京都)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 留学生に対する学習及び生活支援体制が充実している。(大阪教育) 		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 天王寺キャンパスにおいては、学生が使用できるプリンターの不足等が見られ、学習環境面における学生への配慮が必要である。(大阪教育)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国人留学生や障害のある学生に対する学習支援・生活支援に関する体制が整備され、全学的体制で取り組んでいる。(兵庫教育) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 研究科で有職に加え育児や長期介護も申請理由として認める独自の「長期履修学生制度」を導入している。(奈良女子) ○ 障害のある学生支援に関して基本方針を定め、障害学生支援室を設置して全学的支援体制を整備・強化し、「奈良女子大学におけるユニバーサルデザイン導入計画」を策定してコーディネーター・ノートテイカーの適切配置を含む支援を継続的に実施し、自動ドア・エレベーター・出入り口スロープ・身障者用トイレ等を設置している。(奈良女子) ◎ 総合研究棟にベビーシットングルームを設置し、社会人学生等への配慮がなされている。(奈良女子) ◎ 平成19年度に「チャレンジする女性のキャリア形成支援－卒業生ネットワークを活用した在学生・卒業生のキャリア形成支援－」が文部科学省学生支援G Pに採択されている。(奈良女子) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成19年度に文部科学省の再チャレンジ支援経費を財源として、大学院に在籍する社会人学生を対象に、授業料の全額・半額免除の配慮が行われ、就学機会の確保が図られている。(和歌山) ◎ 独自のひきこもり支援プログラムの一環として、学生グループ「アミーゴの会」によって、ひきこもりの学生への支援が行われている。(和歌山) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学院において、職業を有する学生のために長期履修制度などの教育研究支援体制を整備し、学生の状況に応じた学習環境を創出するなどの支援を行っている。(鳥取) ◎ 鳥取大学学生表彰規則を制定して優秀学生育成奨励金制度を設け、当該大学独自に成績優秀者に対する経済的支援を行っている。また、大学院博士後期課程の優秀な学生に対して、エンカレッジ・ファンドを定め、学生を支援している。(鳥取) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 文部科学省現代G Pにおいて、平成17年度に「バリアフリーによる双方向スポーツ教育活動」が採択され、その実施組織として設置されたスポーツ教育センターは、新たなスポーツ教育活動として、医科学サポートとしてのスポーツ相談や地域と連携した双方向のスポーツ教育活動等を推進している。(岡山) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 教職員による国際交流基金が設けられ、外国人留学生への支援が行われている。(鳴門教育) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ スタディ・ヘルプ・デスクを設置し、大学院学生を2人程度常駐させており、利用者はアドバイスを身近で受けられる。(愛媛) ○ 教育・学生支援機構の学生支援センターに専任教員を配置し、就職ガイダンス、就職セミナー、公務員セミナー等の開催、就職情報システム(EURIS)による情報提供など修学・就職支援のきめ細かな対応を行うとともに、「WEB何でも相談窓口」「何でも相談窓口」などを通じてニーズを把握するよう努めている。(愛媛) ◎ 学生による学生のためのボランティア活動を通して「教えあい、学びあい、助けあう力」を高めることを目的として、スチューデント・キャンパス・ボランティア(SCV)を支援し、活動拠点「ピア@カフェ」を設置している。その活動は、学生ボランティアに約100人が登録してノートテイカーとして支援を行う障害学生ボランティアなど多岐にわたり、平成16年度文部科学省特色G Pに採択されている。(愛媛) 		

基準7 学生支援等

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 全学FDフォーラム実行委員会、総合情報センター利用者協議会に学生を委員として加えるとともに、学生を主体とする共通教育学生委員会において、学習支援ニーズを把握する体制をとっている。(高知) ○ 総合情報センター(図書館)や総合研究棟1階に学生の自学自習室を夜間まで開放し、また授業以外の時間には講義室も開放し、学生の自主学習環境を向上させている。(高知) ◎ 学生が学生をサポートするS・O・S(Student's Organization for Self-help and Official support)システムを大学が発足させ、学生グループの申請による自主的なピア・サポート活動を認定して活動を支援している。(高知) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複数の学部で、高年次学生が学習上の助言者となるピア・アドバイザー制度を導入している。(九州) ○ 大学独自の学生に対する経済的支援の取組を複数創設して運用している。(九州) ○ 全学的な取組として、各種ソフトウェアの一括ライセンス契約を結び、すべての教職員・学生がダウンロードして利用できる。(九州) 		○ 大学院生に対する経済的支援は、組織的取組を一層強化する必要がある。(九州)
	○ 全学生に対する学生生活調査を実施してニーズの把握に努め、あるいは学生の「夢」を募集して「夢大賞」を選定するなど、学生のニーズに応じた生活支援が行われている。(長崎)		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「とって元気!宮大チャレンジ・プログラム」を実施し、教育・研究、ボランティア、課外活動、地域交流、国際交流に関する学生の企画を支援している。(宮崎) ◎ 附属図書館の閲覧室や無線LANなど学習環境の整備が進んでいる。(宮崎) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生支援で、学生何でも相談室や学生意見箱を設置していること、学長と学生の懇談会を行っていること、継続的に学生生活実態調査を実施していることなど、意欲的に活動している。(鹿児島) ○ 平成19年度から、当該大学独自の奨学金制度として、成績優秀な新生入生に対する返還不要の奨学金制度(スタートダッシュ学資金)を新設している。(鹿児島) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成16年度の文部科学省現代GPIに「学生スポーツボランティア活動の支援事業」が採択され、学生スポーツボランティア支援室を学内に設置し、地域の学校やスポーツ団体等への派遣支援や学習支援を行っている。(鹿屋体育) ◎ 財団法人鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団を設立し、優秀な競技成績を修めた学生や競技団体への支援を行っている。(鹿屋体育) ○ 競技力向上のための具体的方策を提案し、その実現に向けて活動するTASS(Top Athlete Support System)プロジェクトを立ち上げ、競技力の向上に努めている。(鹿屋体育) ○ 学生と関係委員会委員との直接の意見交換の場である「なんでんかんてん語ろう会」は、学生のニーズの把握や学生生活における問題解決に役立っている。(鹿屋体育) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複数指導教員制による研究指導を実施することにより、きめ細やかで柔軟な教育・研究を実施するとともに、学生のニーズや意見を把握し、適切な学習支援に努めている。(総合研究) ○ 学生の国内外へのフィールドワークに際して経済的支援を行っている。(総合研究) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博士後期課程では、留学生については、学習、研究に必要な十分な英語の能力を要求し、英語のみによる学位取得を可能にしている。(北陸先端) ○ 博士後期課程の学生による「なんでも相談室」を開設し、学生の視点からの相談体制を整えている。(北陸先端) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入学予定者に3月中旬に『履修ガイド』、シラバス、授業時間割表などを送付し、また在学生に対しても3月最終週にガイダンスが行われている。(大妻女子) ◎ 博士後期課程の学生に対し、論文作成のための調査研究や学会発表等の旅費が予算化されている。(大妻女子) ○ 学寮を2カ所に設置し、希望する学生はすべて入寮できる状況にある。(大妻女子) ○ 大学独自の奨学金制度による学資の貸与、給付が行われている。(大妻女子) 		
平成20	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 農学部には「農学部目安箱」が設置されており、年間50件以上寄せられる学生からの意見に対して学部長の回答を掲示している。(宇都宮) ◎ 大学が敷地を提供して設置された保育園を、こどもの保育を必要とする教職員・学生が利用しているのみならず、教育学部学生の保育実習にも活用している。(宇都宮) ◎ 独自の大学奨学金(奨励賞)制度があり、学部・研究科ごとに定められた人数に対して、毎年度末に、学業成績、人物ともに優れている者に授与している。(宇都宮) 		
	○ 卒業生等からの寄附金による学生支援金制度として「Marine奨学金」がある。(東京海洋)		
	○ 大学独自の制度として21世紀KIT特待生制度を設け、学士課程に在学する優秀な学生に対し授業料免除を行うとともに、大学基金による奨学金制度を設け、博士後期課程に在学する優秀な学生に奨学金を付与している(京都工芸繊維)		
	◎ 留学生センターを中心に、留学生に対する学習支援、生活支援をきめ細かく実施している。(神戸)		
	◎ 1年次における全寮制は、授業時間外の学習習慣が身に付き、それを支えあう学生間又は学生と教職員間の良好な関係が構築されやすい環境を備えており、当該大学の特色である。(国際教養)		

基準7 学生支援等

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	◎ 演習室、小講義室のほか、附属図書館のグループ研究室や広い個人ブースを多くの学生が自主的学習に有効に活用している。(神奈川県立福祉)		
		○ 学術情報総合センター等の自主的学習環境は有効に活用されているが、更なる開館時間の延長を望む学習意欲の強い学生が多いことへの対応が期待される。(大阪市立)	
	◎ チューター制度を設けるとともに、詳細な『チューターの手引き』を作成し、全教職員に配付して、きめ細かい指導を行っている。(尾道) ◎ 学長が会長となり、全学生が加入している学生会組織の下で、大学と学生の代表による定期協議の場「連絡協議会」を開催して、ニーズの把握とそれへの対応がなされている。(尾道) ◎ 企業が求める人材を聴く場や、合同企業説明会を開催して、学生と企業の接点の場を設けている。また、教職員が夏季休業中に企業を訪問し、企業開拓、就職先企業のフォロー等を行っており、その数は平成15～19年度の5年間で773社に及んでいる。(尾道)	◎ 施設・設備の授業時間外での使用が認められてはいるが、利用時間の更なる延長を望む学習意欲の強い学生が多いことへの対応が期待される。(尾道)	
	◎ 学生生活実態調査を毎年実施して、学生のニーズの把握に努め、きめ細かい支援を行っている。(宮崎県立看護)		◎ ハラスメントの予防と対処法の整備が十分とはいえない。(宮崎県立看護)
	○ 「学生による授業評価アンケート」とは別に、「新入生アンケート」、「1年生アンケート」、「2年生以上対象の在学生アンケート」など、学生生活等に関する多様なアンケートを実施し、積極的に生活支援等に関する学生のニーズ把握に努めている。(日本社会事業)		
平成21	◎ 「北大元気プロジェクト」、「北大えるむ賞」、「北大ペンハロー賞」により課外活動や社会活動を支援しているほか、「新渡戸賞」、「レーン記念賞」、「クラーク賞」、「大塚賞」による学業奨励を行っている。(北海道)		
	○ 北海道教育大学教育支援基金という大学独自の奨学金制度を設けている。(北海道教育)	○ 学生に対する各種指導助言を書き込むことができる多機能の大学教育情報システムを運用しているが、十分機能するよう一層の努力が期待される。 ○ 学生のニーズの把握のため、3年ごとに学生生活実態調査を行い、各校で学生の要望に対する「回答編」を作成して学生に周知しているが、学生への周知方法については、更なる工夫が期待される。(北海道教育)	
	◎ 企業が説明会を催す「緑丘企業等セミナー」や公務員志望者のための「公務員受験対策講座」を開催するなど、きめ細かい就職支援を行っている。(小樽商科)		
	○ 「茨城大学なんでも相談室」を設置している。(茨城) ○ 学生の自主活動である学生向け大学広報誌の編集を支援している。(茨城) ○ 「学生地域参画プロジェクト」を学内公募し、経費支援をしている。(茨城)		
	○ 聴覚障害のある学生には、学生実習のために音量調節機能付補聴器の貸与や1授業につきパソコンテイク者2人の交互によるパソコンテイクによる修学支援を行っており、電話やインターネット回線等の遠隔通信技術を利用し、荒牧地区によるパソコンテイクを桐生地区においても同様に利用できるようにしている。(群馬)		
	○ 学生の課外活動等のために学生支援センターや埼玉大学学生後援会が、物品等の財政的支援等を行っている。(埼玉) ○ 保健センターには、精神科医3人(うち2人が常勤)とカウンセラー2人(うち1人が常勤)が配置されている。(埼玉) ◎ 平成20年度に「埼玉大学発展基金」による大学独自の奨学金制度を創設している。(埼玉)		
	◎ バリアフリー支援室、駒場コミュニケーション・プラザ、学生相談所、精神保健支援室、柏IO(インターナショナルオフィス)推進室の設置、学生教育研究災害傷害保険料の大学負担、「学生が作る東大ホームページ」(U-T-L i f e)の開設、男女共同参画を目的とした保育園の利用など、学生に対する幅広い生活支援が行われている。(東京) ○ 世帯給与収入400万円以下の学部学生の授業料全額免除や博士課程学生に対する経済支援策が実施されている。(東京)		
	○ 在学生による新入生及び下級生の学生生活支援や学習相談を目的としたピアサポート・プログラムの導入などによる学生相互の支援ネットワークが形成されている。(お茶の水) ○ 新入生全員にノートパソコンを無償貸与し、IT学習の促進を図り、附属図書館におけるラーニング・コモンズの設置などの自主学習支援強化を行っている。(お茶の水) ◎ 育児支援奨学金や長期履修制度、学内保育施設「いずみナースリー」などの女性のライフサイクルに配慮した就学支援や「再チャレンジ支援プログラム」による学生支援活動を行っている。(お茶の水女子)		
	○ 外国人留学生を対象とした独自の奨学金制度を設けている。(静岡) ◎ 外国人留学生と日本人女子学生を入居対象者とした新しい学生寮を建設中である。(静岡)		○ 一部の学部・研究科等において、自習スペース、ラウンジ等の自主的学習環境の整備が十分に行われているとはいえない。(静岡)
	○ 「ゆめ空間」と銘打った学生の自学自習の場を設置し、ここにピアサポーターたちが待機する「先輩のいる学習室」を併設し、学習、生活支援に資している。(名古屋工業) ◎ 学生のための電子的な窓口である学内の学生ポータルサイトを利用して、図書館業務について各種検索システムや図書貸出の予約などへの対応、授業の出欠管理を通しての長期欠席者などへの対応、キャリアサポートオフィスによる就職情報サイトの設置を行っている。(名古屋工業)		

基準7 学生支援等

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学部学生に対し、クラス担任、学年担当又は副担当さらにアドバイザーが精神面・学習面等での支援を行っている。また教員はオフィスアワーも設けて学習支援を行っている。(滋賀医科) ○ 肢体不自由学生や聴覚障害学生を医師国家試験に合格させた実績を踏まえ、医療人育成教育研究センターに「障害学生支援室」を設置して、障害者等への支援体制を整えている。(滋賀医科) ◎ 平成19年度に文部科学省による学生支援G Pに採択された「地域「里親」による医学学生支援プログラム」により、将来滋賀県内で働くことに興味を持つ学生と、地域で活躍する同窓生や地域住民との交流の機会を設け、生活や進路についての助言や支援を行っている。(滋賀医科) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生の自主的学習環境が十分整備され、有効に活用されている。(大阪) ◎ 文部科学省学生支援G Pに平成19年度に採択された「市民社会におけるリーダーシップ養成支援ー「阪大スタイル」育成プログラムの開発ー」では、大学祭で研修に参加した学生が中心となって企画したイベントや泊4日の合宿研修を実施し、「市民社会でのリーダー」養成を目指している。(大阪) ○ 留学生に対しては、コミュニティー・サイトG C N-O s a k aを設け、学習、生活に関する情報を提供し、また、留学生センター、チューター、留学生相談室などによる学習、生活両面の支援をきめ細かく実施している。(大阪) ○ 学内に2つの保育園を設置し、共働きの教職員のみならず学生の利用にも供している。(大阪) ◎ 大学独自の奨学金制度「教養教育奨学金」を設けて、優秀な学生の経済的支援を実施している。(大阪) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年ごとに学生生活実態調査を実施して、その分析結果を教員に報告し、また、「学生と学長との懇談会」を毎年実施するなどして、学生のニーズを幅広く把握する努力がなされている。(奈良教育) ○ 学生が自ら企画する事業のうち、優れたものに対して大学が経済的支援等を行う「学生企画活動支援事業」は、学生の企画力・実践力・社会性を高め、優れた教員等の養成に資する特色ある事業である。(奈良教育) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学生の履修・就職・相談・課外活動の履歴を「学生電子カルテシステム」で一元化し、これらの情報を教職員が共有することにより、学生支援を多方面から組織的、かつ効果的に実施している。(島根) ◎ 平成19年度文部科学省学生支援G Pに「学生の自主的活動の評価と教育効果の向上」が採択され、正課以外の諸活動への参加学生に対してインセンティブ・ポイントを付与し評価する仕組みを構築している。(島根) ◎ 利子補給型奨学金制度である「島根大学授業料奨学融資制度」や大学院学生に対する学会発表等に関わる奨学金支給制度、更に学長が特に学業等が優秀と認めた者に対する授業料減免制度を導入するなど、大学独自の制度を制定・導入して学生への経済的支援を強化している。(島根) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 障害のある学生のために、バリアフリー化を図るとともに、アクセシビリティセンターを相談窓口として、講義の要約筆記をするノートテイクや板書をノートに取るノート作成支援、情報機器による学習支援、試験等における特別措置を実施するなど、入学前から卒業までの総合的支援体制を整備している。(広島) ◎ 学部学生、大学院学生に対する経済的支援として、平成18年度から成績優秀学生奨学制度「広島大学エクセレント・スチューデント・スカラシップ」(学部学生・大学院学生)を実施し、また、平成20年度から学力優秀でありながら経済的理由により大学進学が困難な学生を支援する「広島大学フェニックス奨学制度」(学部学生)を実施している。(広島) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成18年度文部科学省「キャリアパス多様化促進事業」に「産学協働型O J Tを核としたキャリア形成維新プラン」が採択され、その一環として、「山口大学キャリアパス・マッチング・システム」を開発して、大学院博士課程修了者やポストドクター等と民間企業等との就職マッチング活動に積極的に取り組んでいる。(山口) ○ 留学生の生活支援として、ウェブ等による情報提供を日本語以外に3か国語で行っている。(山口) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成18年度から学生の自立的活動を支援するため、学長裁量経費による「学生支援プロジェクト事業」を創設して積極的な財政支援を行っている。(香川) ◎ 経済学部の学生による自主的な取組が学部及び全学の支援を得て「地域活性化を担う人材養成プログラム」に発展し、地域活性化に貢献するとともに新たな科目の開設につながっている。(香川) 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 『身体に障害のある学生の修学支援マニュアル』を作成して、障害のある学生の学修支援に組織的に取り組んでいる。(福岡教育) ○ 保護者への就職説明会・意見交換会を開催している。(福岡教育) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 九州地区における「障害学生支援ネットワーク」拠点校としての先導的役割を担っているが、今後更に向上していくことが期待される。(福岡教育) 	
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 各部署で指導教員制を実施し、学習成果自己評価シート(ポートフォリオ)を用いて指導教員が学生と年2回の面談等を行い、学生の学習・生活全般について状況を把握、指導している。(九州工業) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 留学生に対する奨学金制度や住居サポート制度等のケアが充実している。(佐賀) 		
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成15年度に文部科学省特色G Pに採択された「I T環境を用いた自立学習支援システム」では、履修課程支援や、自主的学習支援の充実を図っている。(熊本) 		

基準7 学生支援等

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<p>◎ 平成20年度文部科学省学生支援G Pに、「不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援－キャンパス・ソーシャルワーカーとの協働による学生の自己選択能力の形成支援－」が採択され、不登校学生への自宅訪問を含めた各種支援を行うとともに、「びあるーム」を設置し就学の問題や不安を抱える学生等に対して相談や個別指導を行っている。(大分)</p> <p>◎ 学内での有志学生による聴覚に障害のある学生のための支援体制を整備し、ノートテイク養成講座、ノートテイクレベルアップ講座を設け、ノートテイクの育成を図っている。(大分)</p>		
	<p>◎ 学生1人に1台のワークステーション又はパソコンの供与が、研究室や自宅での情報科学センターの計算サーバ群、電子ジャーナルの24時間利用を可能にしている。(奈良先端)</p> <p>◎ 授業アーカイブやオンライン型英語学習システムなど、自主学習の最先端の環境が整えられている。(奈良先端)</p>		
	<p>◎ 充実した留学支援制度により、長期・短期それぞれの留学に対して奨学金を交付している。本制度の活用により海外留学をする学生が飛躍的に増えている。(群馬県立女子)</p> <p>◎ 就職支援では、キャリアサポートプログラムの下、就職専門員を中心に教員と連携して、各種のガイダンス・研究会・講座・面談等を実施している。進路情報室内に設置された就職情報支援デスクでは、各種の就職関連の書類の添削や面接対策等をきめ細やかにやっている。(群馬県立女子)</p>		<p>○ ハラスメント相談の処理体制が十分に確立していない。(群馬県立女子)</p> <p>○ 障害のある学生に対する生活支援体制が十分に確立しているとは言えない。(群馬県立女子)</p>
	<p>◎ キャリア支援課(室)では、先輩学生が後輩学生の就職相談に応じるキャリアメンター制度、卒業生が後輩学生の就職を支援するキャリアサポーター制度を活用し、学生の就職相談やキャリア形成支援を行っている。(横浜市立)</p>		
	<p>◎ 学生情報や面談記録等については、平成19年度入学生から「学生カルテシステム」を導入している。(富山県立)</p>		
	<p>◎ 平成19年度の文部科学省学生支援G Pに採択された「WEB学生サービスセンター構想」に基づき、電子メールやテレビ電話による相談体制を整えるなど、相談機能が充実している。(大阪府立)</p> <p>○ 平成20年度の文部科学省「戦略的学連携支援事業」に採択された「実践力のある地域人材の輩出～大学連携キャリアセンターを核にして～」において、大学連携キャリアセンターを核として、就職支援に向けた取組を実施している。(大阪府立)</p> <p>◎ 博士後期課程及び博士課程の学生を対象とした特別研究奨励金を制度化し、経済的な支援策の充実を図っている。(大阪府立)</p>		
	<p>◎ サークル活動及び地域におけるボランティア活動が活発に行われている。(高知女子)</p>		
	<p>◎ 学部1年次生の留学生全員に対して、3、4年次生や博士前期課程の学生をチューターとして個別に配置し学習に関するサポート活動を行っている。(北九州市立)</p> <p>○ 「早期支援システム」を設け、学生サポート委員が個別に学修・生活相談を行うことで、学生の悩みや問題を早期に発見し、支援を行っている。(北九州市立)</p> <p>◎ 北方キャンパスにおいて、学生支援のための多様な機能を集中させた学生プラザを設置している。(北九州市立)</p>		
<p>平成22</p>	<p>○ 「うしぶ」や馬術部等、当該大学の特色あるサークルの活発な活動を教育的配慮の下に支援している。(帯広畜産)</p> <p>◎ 学生主催の「就職応援団」をサポートするなど、きめ細かい就職支援を行っている。(帯広畜産)</p>		
	<p>○ 平成21年度より独自の奨学金制度「つくばスカラシップ」を創設し、学生が安心して勉学に専念できる環境を整備するとともに、国際化の一層の推進を図っている。(筑波)</p> <p>◎ 障害学生支援室では、ピア・チューター養成講座の開設、総合科目「共生キャンパスとボランティア」の開設等により一般学生への啓発活動を行うとともに、障害学生支援室ウェブサイトにおいて、当該大学の障害学生支援体制・状況について周知を図っている。また、日本学生支援機構が行う障害学生修学支援ネットワークの拠点校として、他大学からの障害学生支援に対する相談を受けており、当該大学のみならず、他大学の障害学生支援にも寄与している。(筑波)</p> <p>○ 平成20年度文部科学省学生支援G Pに採択された「共創的コミュニティ形成による学生支援～学生・教職員が一体となった新たな自主的活動の創生～」により、学生・教職員が一体となった自主的活動を展開するサポート組織を設置し、「つくばアクションプロジェクト」として学生の自主性と社会性の育成のため、また、充実した学生生活の実現のために展開している。(筑波)</p>		
	<p>◎ 大学独自の奨学金「学芸むさしの奨学金」を開設するとともに、将来、学校教員になることを志望しながら経済的理由で大学への進学が困難な学生を対象に「東京学芸大学教職特待生制度」を実施している。(東京学芸)</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省学生支援G Pに「学芸カフェテリアによる学修・キャリア支援事業－全学の援助資源の活用と最適化された学生支援プログラムの開発－」が採択され、学生の学修と将来設計を支援する仮想の「学芸カフェテリア」をウェブサイト開設するとともに、講義棟内に学生が自由に集う現実の「カフェテリアオフィス」を開設している。(東京学芸)</p>		
	<p>○ 個人又は団体等からの寄附金等により給付される、対象等を指定した学内奨学金制度があり、平成21年度で25件、延べ約100人の学生が給付を受けている。(東京芸術)</p>		

基準7 学生支援等

優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
<p>○ 文部科学省学生支援G Pにおいて、平成19年度に採択された「「オフ」と「オン」の調和による学生支援—高機能発達障害傾向を持つ学生への支援システムを中核として—」では、社会的なコミュニケーションに困難を伴う学生の特性に配慮した包括的なコミュニケーション支援を目指し、保健管理センター等関係組織と連携しながら総合的、全学的な学生相談・学生支援体制を整備している。平成21年度には身体に障害のある者の支援も含め、新たに障害を持つ学生をトータルに支援できるアクセシビリティ・コミュニケーション支援室を設置し、日本学生支援機構が行っている「障害学生修学支援ネットワーク事業」の北陸・信越地区の拠点校となっている。（富山）</p> <p>○ 文部科学省学生支援G Pにおいて、平成20年度に採択された「富大流人生設計支援プログラム—『14歳の挑戦』と連携する長期循環型インターンシップモデル—」では、参加学生をピアサポートするキャリアサポーターを早期から育成するために「教養原論演習」を開講するなど、長期循環型インターンシップの浸透に向けた取組を通して、学生に人間力・社会人基礎力・就業力の向上を図っている。（富山）</p>		
<p>◎ 大学院課程では、文部科学省「現職看護師等社会人学生支援プログラム」に平成19年度に採択された「再チャレンジ支援経費」において、遠隔地学生への出張講義による修士論文作成の支援、学生の授業料免除の支援を行っている。（琉球）</p> <p>◎ 平成22年度に文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」においては、「未来を切り拓く就業力獲得留学支援事業」が採択されている。（琉球）</p> <p>◎ 教職員等からの寄附による「琉球大学学生援護会」を設立し、学生の経済的負担を軽減している。（琉球）</p>	<p>◎ 「学習サポートルーム」を開設し、大学院生の協力を得て、きめ細かい学習支援を行っているが、一層の活用が期待される。（琉球）</p>	
<p>○ 学生全員に対する常時利用可能な個人研究ブースの割り当てやノートパソコンの貸与等、学生の自主的学習環境が十分に整備されている。（政策研究）</p> <p>○ 学生支援を行う体制として、スチューデント・オフィスを設置するとともに、スチューデント・オフィスを中心として、保健管理センターやプログラムディレクター、関係教職員が適切に情報共有や対応を行う体制において、学生の生活支援が行われている。特に、学生の6割を占める留学生に対しては、その家族に対する生活支援、宿舍の整備や管理人の設置を含めた生活支援を行っている。（政策研究）</p>	<p>○ 外国人留学生に対する奨学生制度は非常に優れているが、有職者以外の日本人学生に対する経済支援も強化することが期待される。（政策研究）</p>	
<p>○ 平成17年度文部科学省「大学国際戦略本部強化事業」に採択され、国際戦略本部主導による国際共同プロジェクトの推進、教員の国際公募や国際関連業務の一元化、外国人教員や留学生の受入体制の整備を行っている。補助事業終了後も独自の財源により継続、発展させている。（会津）</p> <p>○ 平成20年度経済産業省・文部科学省「アジア人財資金構想」高度専門留学生育成事業に採択された「会津発グローバルITリーダー育成プログラム「国際IT日新館」」では、会津大学が地元ベンチャー企業や国内有力企業と連携して、アジアからの留学生を対象に、国際的にも通用する会津発のグローバルITリーダーの育成に努めている。（会津）</p> <p>◎ 平成19年度文部科学省学生支援G Pに採択された「プロジェクト卒業生240+α」では、入学定員240人に相当する卒業生を毎年輩出することを目標に、修学支援、キャリア支援、健康・メンタルヘルス支援などを実施している。（会津）</p>		
<p>◎ 博士後期課程において、首都大学東京大学院研究奨励奨学金や東京都の「アジア人材育成基金」を用いて、多様な学生に対する援助を行っている。（首都大学東京）</p>	<p>○ 障害を有する学生への配慮が行われているが、関係者の連携を深め、より一層組織的な取組が期待される。（首都大学東京）</p>	
<p>○ 特徴的な活動として、四芸祭や芸術祭を毎年行っている。（愛知県立芸術）</p> <p>○ 大学独自の奨学制度として、愛知県立大学法人独自の成績優秀者奨学金及び海外渡航費助成制度、県立大学奨学基金（愛知県立芸術大学美術学部片岡球子奨学事業）、愛知県立芸術大学中村桃子基金（中村桃子基金奨学生助成事業）が設けられている。（愛知県立芸術）</p>		
<p>○ 学生からの相談にワンストップサービスの窓口対応を行うため、大学附属施設として学生支援センターを設置し、学習支援のほか学生生活全般にわたる支援を行っている。（滋賀県立）</p>		
<p>◎ 学生によるボランティア活動が活発である。（奈良県立）</p> <p>◎ 平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に新たに採択された「学生の夢と伴走するホームとなる体制づくり」では、「就業力育成センター」を新設することとしている。（奈良県立）</p>		
<p>○ 成績不振や学習意欲低下の学生の保護者との面談を東京、北九州で行っている。（九州歯科）</p>	<p>○ なんでも相談室という学生支援のワンストップサービスを設置しているが、利用の向上に向けた更なる対応が期待される。（九州歯科）</p>	
<p>◎ 学生のボランティア活動を支援し、社会に貢献できる人材育成を目的として、学内に「社会貢献・ボランティア支援センター」を開設し、学生に対し積極的にボランティア活動を推奨している。（福岡県立）</p> <p>◎ 副理事長と学生支援班長が、サークル単位、寮生、就職活動を終えた4年次生等と毎週意見交換会を開催し、要望を集約し、対応策を整理するとともに、解決が可能な場合には迅速に着手している。（福岡県立）</p> <p>○ 年末及び年始は、留学生が寄宿する学生寮がほぼ無人になるため、安全面を考慮して、田川市内等でホームステイを実施している。（福岡県立）</p> <p>◎ 平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」において、「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」が採択されている。（福岡県立）</p>		
<p>○ オフィスアワーノートを全教員に配付し、オフィスアワーの実質化に取り組んでいる。（福岡女子）</p>		<p>◎ 就職支援については在学生や卒業生の満足度が低い。（福岡女子）</p>

基準7 学生支援等

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ビッグシスター制」により、上級生による実質的な学生支援が行われている。(大阪女学院) ◎ 平成21年度に「戦略的就職支援システム導入による就職サポートサービスの充実化」が文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム」に採択され、就職支援の強化、充実に取り組んでいる。(大阪女学院) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害のある学生には教材の音声化、字幕化による支援を行うとともに、学習センターにおいて、面接授業受講時や単位認定試験時に試験時間や試験室で特別の配慮をしている。(放送) ◎ 単位制の授業料等により経済的負担を軽減し、履修できる仕組みを整えている。(放送) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビやラジオの放送、ウェブサイト、電子メール、電話、郵便等の広範な情報通信手段を用いた専任教員及び職員による履修指導に加え、本部の学生サポートセンターにおける電話対応や、学習センターでの教員による学習相談等を行っているが、教職員・学生への周知と機能の更なる向上が期待される。(放送) 	
平成23	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 特徴的なオープンスペース構造が学生の自主的学習を促進するとともに、その構造とガラス張りを基本とするパーティション構成により、学生の教員室訪問を容易にしており、学生と教員のコミュニケーションが十分に図られている。(はこだて未来) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 平成23年3月東日本大震災発生後、被災地支援のボランティア活動を始めようとする学生に対し、早期に適切な指導・支援を行った。(山梨県立) 		
		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 外国人留学生の数は漸増傾向にあるものの、当該大学の目的に照らして多いとはいえないので、一層の増加が期待される。(愛知県立) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 学生相談機能を充実するため、出席状況や単位履修状況が思わしくない学生を早期に発見し、学生相談室や関係教職員が情報を共有するための3キャンパスを横断するシステムを構築し、平成23年度より専任カウンセラー(准教授)を配置し、学習障害のある学生の発見と支援を視野に入れて、学生が訪れやすい雰囲気や相談環境を整備するなど、きめ細かく支援や指導をする体制を確立している。(県立広島) ○ 3キャンパス間の距離を越えて大学を一体化、活性化するための合同キャンパスの企画や学生同士の交流・地域との交流促進に資する学生の提案を実施する「いきいきキャンパスライフ・プロジェクト」や「ボランティア活動」に必要な経費の一部を大学として助成している。(県立広島) ○ 課外活動の中で重度の機能障害となった学生に対して、卒業まで学内、通学を含めて生活の全般にわたって支援するために、全面的に引き戸に改修するなど施設、設備の改善を行っている。(県立広島) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 児童学部のピアノ練習室には240台のピアノを設置し、極めて有効に活用されている。(聖徳) ◎ キャリア支援室の体制を整備し、学生の志望するキャリアの特性を活かして支援を充実させている。(聖徳) 		